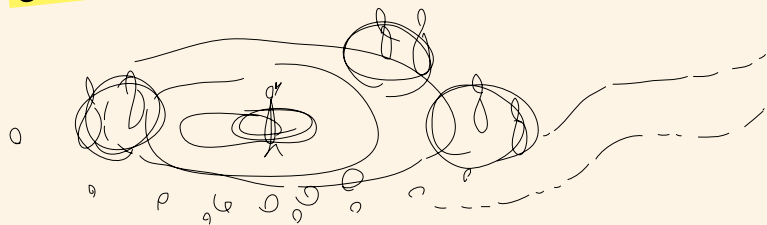




丁寧な作業が場を開き
まちも人もものびのびする



きむらとしろうじんの〈野点〉とは

1995年よりアーティストきむらとしろうじん氏が継続的におこなっている、「陶芸・お抹茶屋台」。素焼きのお茶碗、お茶碗を焼く窯、お茶道具一式を積んだ2台のリヤカーを引いたじんじんさんが、まちなかの路上や空き地などさまざまなスペースに出没。そこに立ち寄ったお客さんは、好みの形の素焼きのお茶碗を選び、絵付けをする。お茶碗はその日のうちに焼き上がるので、焼き上がったお茶碗で抹茶を楽しむこともできる。

▷ [P.82 きむらとしろうじんインタビュー 参照]

〈野点〉の魅力

①「余白」を楽しむ

まちなかに突如現れる〈野点〉の空間は、普段まちの景色を見慣れている人やそうでない人も「何だろう?」と、違和感と共にうっかり立ち寄りたくなる空気を持っている。〈野点〉のお茶碗が次々と焼き上がるのを眺めているうちに、思いもよらずゆっくりにしまったり、何か自分もしたくなったりする。その気持ちの赴くままに、お気に入りのお茶碗を選び、絵付けに没頭したり、はたまた、〈野点〉の周辺で自分も表現者になっているなんていうこともある。

リヤカーが運び込まれ設営が始まると沢山の人が見物に寄ってくる。
「なんやあ? 炊き出しかあ?」と元気な声、
「酒置いてないかあ、なんや、しょーもない」と吐き捨てるような声、
現場の風景にびっくりして少し居心地悪そうな外から来たお客さんも、
道ばたで始まっている不思議な作業に寄ってきた地元の見物人のおっちゃんもおばちゃんも、
リヤカーが組み立てられ・釉薬が並べられ・ポツと音がして窯に火が入るのを観ながらあれこれ話している。

②作業を通じて深まる関係

開催当日の作業の多くは、スタッフに任されている。設営、お茶碗の受け渡し、絵付けのお客さんの対応、お茶碗磨き、最後の片付けなど、それらの作業を介することで、他のお客さんや周りのスタッフと話すきっかけが生まれ、一つのお茶碗を介して、思いもよぬ出会いや関係が生まれていくことも野点の面白みの一つである。

③1人1人に向き合いながら余白をつくる

じんじんさんは〈野点〉開催までに、安全に〈野点〉ができるように、またより多くの人立ち寄れる可能性を開くために、企画者だけでなく、関わるスタッフ、まちの人と丁寧なやりとりを繰り返す。まちの人たちにあいさつをして回ったり、新しく出会う人には何度でも〈野点〉の説明をする。そのふるまいを企画者やスタッフが共にすることで、当日の場の開かれ方が大きく変わってくる。事前の顔と顔を合わせたあいさつがどれだけできたかが、多くの人立ち寄れる「余白」の広さを担保しているといっても過言ではない。

楽焼きのできるまで

©きむらとしろうじん



① お茶わんの形はぼくがつくりました。

② みなさんは絵付けをしてください。

③ 30~40分で焼けます。

④ いぶして水につけて、

⑤ できあがり!!

⑥ よかったらお茶でもの飲んで

⑦ のんびりしていきってくださいね♡

すき焼き型

肉汁を吸って素材がうきうき

必要なもの

◆場所

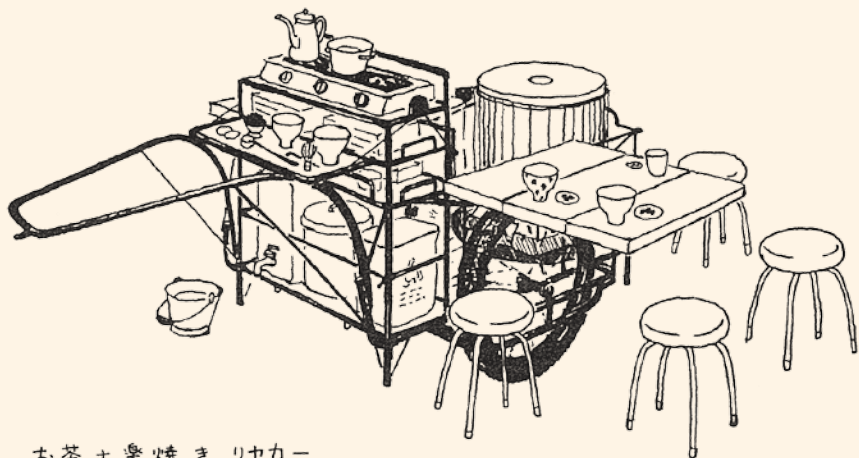
- ① じんじんの宿泊先
- ② リヤカーを積んだ車の駐車場
宿泊先の近く、および開催場所の近くに
確保すること
- ③ 開催場所
運動会テント2張り分の広さ
- ④ お客さん、スタッフの駐車場（状況に応
じて）

◆人

- ① きむらとしろうじん
- ② スタッフ2～6人

◆道具

- ① お茶+楽焼きリヤカー（大）
- ② 絵付けリヤカー（小）
- ③ 運動会テント（雨天時にあると便利）
- ④ ビールケース 12個程度（お茶碗みがき
やテントの高さ調節などにあると便利）
- ⑤ 砂袋（運動会テントの抑えとして。風が
強くなければ無くても大丈夫）
- ⑥ スタッフ証（ガムテープにペンで名前を
書くなどでOK）
- ⑦ その他 リヤカーまわりの設備、道具は
じんじんさんが持参



お茶 + 楽焼き リヤカー
Cart for café + raku firing

©きむらとしろうじん

つくりかた

◆プロセス

- ① 時期を決める
- ② まちをみる、歩く、知る
- ③ 候補地のピックアップ・決定
- ④ 場所交渉、あいさつ回り、開催地の決
定
- ⑤ 体験説明会
- ⑥ 開催当日

プロセスで大切にすること

- ① じんじんとたくさん話をする
じんじんさんが最近興味を持っているこ
とや、問題意識、〈野点〉を開催するにあ
たってのたくさんのイメージ共有ができる
ように、実質的な作業や打合せ以外にも
コミュニケーションをとる。また、ゆったり
と時間が過ごせるように、余裕をもったス
ケジュールリングをする

② お散歩会

— 〈野点〉を杖にまちを見る —

じんじんと歩きながら、〈野点〉をま
ちに置くことを想定して、あれこれ想像
しながら〈野点〉を開催する場所を探す。
〈野点〉を杖にまちを見ることで、それま
で気付かなかったまちの魅力に気付いた
り、何がハードルになるのかなど、まちに
対するさまざまな気付きが生まれる

③ あいさつ回り

〈野点〉の開催場所が決まったら、周辺
の住民の方や〈野点〉に呼びたい方にあい
さつに伺う。あいさつに伺うことで〈野点〉
の開催を知ってもらうだけでなく、地域
の方々と知り合う機会にもなる。あいさつ
の時間を充実させることが、当日の「余白」
をうみ出すことにも繋がる

◆当日の流れ

- ① 天候判断
- ② 集合・会場設営・リヤカーの設置
- ③ じんじんさんが衣装で登場。野点がス
タートしたらお客さんに対応
・絵付けリヤカーエリアでは、お客さんの
サポートや戸惑っているお客さんの背中
を後押しする
・窯付近にお客さんが近づきすぎないよ
うに気を配る
・磨きエリアでは、釉薬が垂れて鋭くなっ
ている部分に注意する。煤がきれいにと
れるまで大切に磨く
・受付エリアではお茶碗選び、梱包、受け
渡し、お茶碗の取り違えに注意する
・作業はすべてゆっくり丁寧なことを
心がける
- ④ 日が暮れたら〈野点〉終了・片付け
- ⑤ 窯が冷えるまで当日の様子を振り返りな
がら、スタッフのみなどと語らう

現場監督心得

- ① とにかく安全第一。ゆっくり丁寧に作業
することを心がけ、事故やケガなく開催
できることが何より大切
- ② スタッフみんなの体調管理に気を配り、
休憩や昼食、片付けのシフト組をバランス
よくおこなう
- ③ 「余白」を活かす。見物客やお茶碗がで
きあがるのを待っているお客さんとの会話
を大切にす。なかなか参加できずにい
るお客さんを見かけたら、絵付けに誘う